

工を竣るに際して

創立者 堀 井 章 一

およそ人たるものは、いかなる人といへども生れながらにして何か一つの才能を神から與へられて、この世に生を享けて來たものであると信じます。その才能を發芽させ、さらにいよいよ大きく育て伸し、以てそれを世のため人のために働かせてゆくのは、とりもなほさず教育の力に依るのであると思ひます。

かくして國民の一人一人が、各々に與へられた才能を大きく育て上げてこそはじめて、一國の獨立は完全に確保せられ、さらに國運の進展も可能になつて來るのではないかと考へられます。

わたくしは越後の一農家に生れ、寒村の一小學校を卒業したのみで、今日に到るまで、教育らしき教育を受けることなく過して參りました。そして、今日に及び、仕事の必要から社會の各方面との接觸の機會が多

くなるにつれて、ますます教育の太切さを痛切に感ぜずには居られないのであります。

想ふに、教育の無い者は往々にして無思慮に行動しがちであります。そしてその結果、自分一身にこつて思はざる災禍を招くのみか、ひいては他人にまでも迷惑を及ぼすことがあります。しかるに、人間は教育に依つて、自己に與へられた才能を磨くと同時に、物ごとに對して廣く深く考へることが出来るやうになると思ひます。言ひ換へるならば、教育の根本義は、人間に「考へる生活」の基礎を與へるものであり、人間は深く考へることに依つて、その生活行動に中正を失はず、自己の完成へ進み得るところにも、決して他人の妨げとならぬ生活態度を養ふところに在るのではなからうかとわたくしには考へられるのであります。かく考へますれば、教育は個人にとつては勿論、國家にとつても絶対必要であり國民全部が享受しなければならぬものであることは申すまでもありません。しかも教育の有難さ、太切さ云ふことは、無學の者にこそ痛感させられるのであります。

さらに、社會の進歩の蔭には多くの偉大なる女性が存在し、歴史を動

かす大きな力となつたと云ふことは、わたくし共が日々よく聞くところであります。又、今次の事變に際しても戦場に於て散華せられた忠勇なる將兵の蔭には、涙なくしては聞き得ないやうな多くの健氣なる母や妻の在つたことを知つて居ります。前線の勇士を動かすものも、銃後の男子にこつて奉公のための力の源泉となるものも何れも女性であります。女性の力こそ國家活動の基礎とも云へませう。洵に、偉大なる國家は偉大なる母に依つて作られます。そして正しき國民は正しき母に依つて生れるのであります。その偉大なる母、正しき女性は、子女の教育に俟つのであります。今日の如く國家が女性の力を要求してゐる時、いよいよ子女教育の必要を痛感させられるのであります。

しかるに今日、いはゆる入學難が叫ばれ、國民學校から更に上級の學校を志す者の一部分は、遺憾ながら施設の不足から、かくの如く大切なしかも國民として當然享受しなければならぬ教育の機會を與へられない現状であります。

わたくしが茲に、紀元二千六百年を記念し、些か私財を投じて學舎を開き、多くの子女諸君を集めんとする所以は、もとより私事としてゝはなく、これを廣く世に公にして學に志す者をして來り遊ばしめんことを欲するが故であります。

希くば、堀井學園に學ばんとする子女諸君は、氣品を養ひ、智徳を磨き、體育を練り、以て社會の模範として恥しからざる女性たるべく協同勉勵し、その功を奏せんことを切望する次第であります。

—昭和十六年十一月—